

ACO ふれいす事業所自己評価シート

保護者による評価

実施：令和 7 年 2 月
回収 59 名（回収率 89%）

A 環境面

1. 活動のスペース確保

93%確保されているとの評価があった。

2. 職員の専門性・配置数

100%の適切であるという評価があった。

3. 設備

バリアフリー化の配慮がされているとの評価は 89%であった。

B 児童への支援内容

4. 個別支援計画作成

客観的に作成され分かりやすく説明されているという評価が 100%だった。

5. 活動プログラムの工夫

91%工夫されているという評価であった。日々工夫されている点の評価する声や、他児とのコミュニケーションを図るプログラムの提供を希望する声があった。

C 事業所からの情報発信

6. 利用者負担や支援内容の説明

96%が口頭で丁寧な説明やコードモンが活用できているという評価であった。

7. 子どもの状況や発達課題での保護者との共通理解

98%できているという評価であった。意見の中には早急で柔軟な対応に助かっているとの内容もあった。

8. 保護者面談や育児相談の支援

98%が適切に行われているという評価があった。

9. 保護者会など保護者同士の連携

64%の評価であり、どちらともいえないが 15%、詳しくわからないと答えた方が 18%であった。

10. 苦情に対する対応

89%が適切に対応しているという評価であった。

11. 意思疎通や情報伝達のための配慮

98%適切であるとの評価を得た。

12. 情報発信について

94%が適切であると評価している。

13. 個人情報について

98%は十分に注意しているという評価であった。

職員による自己評価

実施：令和 7 年 2 月 回収 9 名（回収率 100%）

A 環境面

1. 訓練室等スペース

88%確保されているとの評価だった。

2. 職員の配置数

33%が適切であるという評価だった。どちらともいえないが 55%で、トラブルがあった際に職員の手が足りなくなる瞬間があるという意見があった。同時に足りない状況であれば他部署から補えるという記述もあった。

3. 設備においてバリアフリー化の配慮

88%適切であるという評価だった。引き戸などのレールも上部あることで躓きにくくなる工夫がされているという記述があった。

B 業務改善

4. 業務改善を進めるための参画

77%が評価していた。

5. 保護者の意向を把握し業務改善につなげているか

66%の評価で、どちらともいえないが 33%であった。

6. 自己評価結果の公開

66%が適切に公開しているという評価だった。

7. 外部評価について、

44%が外部からの評価を業務改善につなげていると評価している。55%はどちらともいえないという回答であった。情報が周知されていないことが原因であると考えられる。

8. 研修の機会確保

88%が評価しており、研修により質の向上を図っている評価を得た。

C 適切な支援の提供

9. 客観的分析による個別支援計画の作成

77%が適切にできているとの評価だった。

10. 標準化されたアセスメントツールの使用

66%が使用できていると評価している。

11. 活動プログラムの立案

77%がチームで行うことが出来ていると評価している。

12. 活動プログラムの工夫

77%が固定化しないよう工夫していると評価している。

13. 課題設定に応じた支援内容

77%が出来ていると評価している。

14. 子どもの状況に応じた支援計画の作成

88%が出来ていると評価している。

15. 支援開始前の打ち合わせ

100%が出来ていると評価している。

16. 支援終了時の振り返り

77%が出来ていると評価している。

17. 記録の徹底、支援の検証・改善

77%が出来ていると評価している。

D 関係機関と保護者との連携

18. 定期的なモニタリングによる個別支援計画の見直し

66%が出来ていると評価している。

19. ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせた支援

77%が出来ていると評価している。

D 非常対応

14.緊急時対応、防犯、感染症対応について、

91%が適切に対応していると評価している。

15.非常災害の訓練

81%が適切に行われていると評価している。詳しく分からないと評価した人も13.8%いた

E 満足度

16.通所を楽しみにしている

評価は79%であった。また、どちらともいえないという評価は19%であった。

17.支援への満足

評価は98%であった。放課後教室の支援による、送迎バスの運行時間などについての要望があった。親子イベントや秋祭りなど、イベントについては楽しみにしているという意見が多くあった。

D. 保育所等訪問支援（利用者のみ回答）

18. 支援への満足

評価は100%であった。ただ、学校に依頼しても受けれてくれなかったという意見があった。

20. 相談支援のサービス担当会議への参画

77%が適切な人材が参画していると評価している。

21. 学校との情報共有、連絡調整

88%が適切に行っていると評価している。

22. 医療的ケアの子どもの受け入れ、主治医との連携体制

55%が適切にできていると評価している。どちらともいえないが44%で、これは対象児がいけないことが要因だと思われる。

23. 就学前に利用していた幼稚園や保育園など、発達支援事業所との情報共有と相互理解

55%が出来ていると評価している。情報共有が十分に行えていない部分もあるのではないかとする記述があった。

24. 事業所を移行するときの情報提供

66%が出来ていると評価している。

25. 専門機関との連携や助言・研修の活用

66%が出来ていると評価している。

26. 障がいのない子どもとの交流

22%できていると評価している。障害児通所支援事業のため、交流の機会が少ないことについては理解されている。

27. 地域自立支援協議会等への参加

55%が出来ていると評価している。

28. 利用者に関する保護者との共通理解

88%が出来ていると評価している。

29. ペアレントトレーニング等の保護者支援

66%が出来ていると評価している。

E 保護者への説明責任

30. 運営規定、支援内容、利用者負担額の説明

66%が丁寧な説明を行っているという評価がある。

31. 保護者からの相談対応の支援

77%が出来ていると評価している。

32. 保護者同士の連携の支援

44%が出来ていると評価している。

33. 苦情対応

77%ができていると評価している。

34.情報の発信

77%ができていると評価している。

35.個人情報への留意

88%ができていると評価している。

36.利用者への情報伝達の配慮

77%ができていると評価している。

37.地域住民との交流

33%の評価で、どちらともいえないが55%が多かった。こちらも障害児通所支援事業ということから、交流の機会が少ない現状がある。

38.マニュアルの策定・周知

88%ができていると評価している。

39.非常時の訓練

88%ができていると評価している。

40.虐待防止への取り組み

88%ができていると評価している。

41.身体拘束の説明

88%ができていると評価している。

42.アレルギーの配慮

88%ができていると評価している。

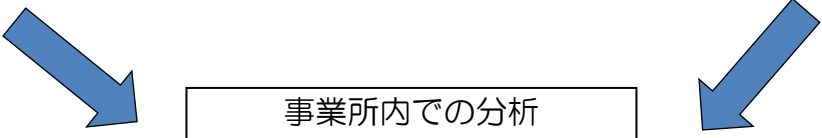
43.ヒヤリハットの作成・周知

77%ができていると評価している。

D. 保育所等訪問支援(担当者のみ回答)

44.学校との連携が十分できているか。

80%が十分にできていると感じている。学校から「アドバイスは受けない」と言われ、連携が難しいことがあるという意見があった。



事業所内での分析

【共通点】

環境面：職員の専門性、スペースの確保についてはともに高い評価が多かった。施設のバリアフリー化についても支持を得られているが、引き続き進めていきたい。集団活動では児童同士のトラブルなどがあると、対応に人手が必要となり、職員の数が一時的に少なくなる状況があるものの、同事業所内の他部署から人手を借りることで、対応することもできている。

児童への支援内容：職員・保護者ともに評価が高い内容が多かった。保護者からはプログラムの工夫や、イベントの評価をいただくことが多かった。トラブル時や子どもの様子に合わせた早急で柔軟な対応も評価を高くいただいている。職員からは情報共有が事前にできている点が評価されていた。保育所等訪問では学校との連携に難しさを感じるのが保護者・職員共にあり、連携が取ればより良い支援につながっていることが分かった。

事業所からの情報発信：保護者職員ともに高い評価を得ている。保護者会や各機関との連携会議については、利用している一部の方からは評価が得られているものの、周知されていないことから、高評価につながらなかった可能性が考えられる。情報発信の仕方は工夫が必要だと思われる。

非常対応：前回よりも高評価となり、避難経路や避難時の連絡方法などは周知され始めているが、まだ高評価にはつながっていないため、引き続き工夫が必要だと思われる。

保護者への説明等：全体的に高評価ではあるものの、保護者同士の連携や、地域住民との関わりに関しては実際にできていないことが多いため、工夫が必要であると考えられる。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・設備環境や、支援の質については高評価を得られている。
- ・子どもの状態像に合わせた柔軟な対応といった点も、評価をされている。
- ・情報発信という点でも、ICTのアプリを活用したことで、周知されやすくなったと思われる。

事業所の改善点

- ・保護者同士の連携や、地域住民との交流の機会が少ないため、増やす必要がある。
- ・連携会議などについては、利用者のみの理解にとどまりやすく、周知されていないことがある。
- ・非常時の対応について、避難所の確認や非常用品の点検など職員、利用者ともに確認をしていく必要がある。
- ・保育所等訪問支援では学校との連携を円滑に取れるよう、保護者と協力した働きかけを行っていく。

事業所の改善への取り組み

環境面：

- ① 職員配置について緊急時の対応を含めた段取りや見通しを行う。

支援内容：

- ① 引き続き専門性を生かした支援を提供していく。
- ② 保護者や家族の支援も含めた支援内容を考え、提供していく。
- ③ 保育所等訪問支援は保護者との連携を密にし、連携を取っていく。

情報発信：

- ① 広報誌を発行し、外部に向けて ACO の取り組みを発信していく。
- ② 連携会議への参加など、利用していない人にも周知できるよう、お知らせしていく。

非常対応：

- ① 非常時の対応、マニュアルをすべての職員が把握し、対応を行えるよう内部研修を行う。
- ② 災害備蓄や避難場所の確認、スムーズな誘導が行えるよう避難訓練を行う。
- ③ 活動中の対応について保護者と事前の取り決めをしておき混乱の生じないよう対応する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

前年と同様、支援内容に関しては職員・保護者ともに高評価であり、満足いただけていることが分かった。一方で、利用している支援や保護者によって情報量の差があり、周知がされていない情報もあることが分かった。保護者同士や地域住民など、児童だけでなくそれを取り囲む周囲の環境へのアプローチが今後は必要だと感じた。

事業所名 ACO 放課後等デイサービスふれいす

担当者：筒本 千文